

知多半島で確認されたハマベゾウムシについて

長谷川道明*・金 郁彦**・大場裕一**

Rediscovery of the flightless supralittoral weevil, *Aphela gotoi* (Coleoptera, Curculionidae)
from the Chita Peninsula, Aichi Prefecture, Japan

Michiaki Hasegawa*, Ikuhiko Kin** and Yuichi Oba**

はじめに

ハマベゾウムシ *Aphela gotoi* (Chûjô et Voss, 1960) は、三重県津市の阿漕浦海岸、津海岸及び愛知県美浜町内海海岸産の標本に基づいて記載された海浜性のゾウムシで、北海道から九州にかけての海岸に分布する(森本, 1993)。本種は、砂中に埋もれた漂着アマモ類 *Zostera* spp. の堆積物中に生息し、アマモの漂着量に強く依存した生活史をおくっている。さらにアマモの漂着量が多くても礫浜には生息しないことから、生息環境には、砂浜と、周辺に漂着アマモの供給源(アマモ場)が不可欠となる(松本, 2003)。そのため、環境悪化に影響されやすく、岩手県、宮城県、千葉県、静岡県、愛知県、三重県、福岡県、長崎県の各県で絶滅又は絶滅危惧種の指定を受けている(野生動物調査協会・Envision 環境保全事務所, 2014)。

東海地方では、愛知県豊橋市から静岡県浜松市にかけての遠州灘海岸に比較的規模の大きな生息地が存在するが(長谷川・蟹江, 1992; 多比良・松本, 2000; 松本, 2003)、タイプ産地を含む阿漕浦海岸、津海岸、内海海岸では、1960年代後半から生息が確認されておらず、すでに絶滅したとみなされている(穂積, 1990; 愛知県環境調査センター(編), 2009; 三重県環境森林部自然環境室(編), 2006)。

砂浜環境がある程度残されているにも関わらず、これらの海岸において本種が絶滅したのは、いずれも伊勢



第1図. 美浜町河和産ハマベゾウムシ(スケールバーは5 mm)。

* 豊橋市自然史博物館. Toyohashi Museum of Natural History, 1-238 Oana, Oiwa-cho, Toyohashi, Aichi 441-3147, Japan. E-mail: hasegawa-michiaki@city.toyohashi.lg.jp

** 名古屋大学大学院生命農学研究科. Graduate School of Bioagricultural Sciences, Nagoya University, Nagoya, Aichi 464-8601, Japan.

原稿受付 2016年1月26日. Manuscript received Jan. 26, 2016.

原稿受理 2016年2月13日. Manuscript accepted Feb. 13, 2016.

キーワード: ハマベゾウムシ, 知多半島, 愛知県, 絶滅危惧種.

Key words: *Aphela gotoi*, Chita Peninsula, Aichi Prefecture, threatened species.

第1表. ハマベゾウムシ確認地点周辺海岸の状況とアマモ漂着量.

No.	調査地点	3次メッシュコード	砂浜の有無	アマモ漂着量	ハマベゾウムシ	備考
1	美浜町布土大池	5236-1753	+	少	-	
2	美浜町時志	5236-1743	+	-	-	
3	美浜町北方	5236-1733	+	-	-	浜の南端部に僅かにアマモの漂着あり
4	美浜町河和北屋敷	5236-1723	+	多	+	
5	美浜町新浦戸	5236-1713	-	-	-	
6	美浜町古布	5236-1704	-	-	-	
7	美浜町豊丘矢梨	5236-0795	-	-	-	
8	南知多町豊丘豊浦	5236-0785	+	-	-	海藻類が多く漂着
9	南知多町大井	5236-0777	+	-	-	

各項目において、「+」は有または確認, 「-」は無または未確認を示す.

湾に面した海岸であることから, 伊勢湾内のアマモ場の消失により, 漂着アマモの供給が断たれたことが主因となったと推測される. 伊勢湾・三河湾のアマモ場は, 1955年から1960年にかけて激減し, 1989年時でのアマモ場面積は, 1955年前後の僅か2.1%となっている(阿知波, 2009). このことから, 愛知県内においては, 表浜海岸以外でのハマベゾウムシの生息は絶望的と考えられていた.

筆者の一人, 金は, 2015年7月28日に美浜町河和の海岸で研究試料を採集中に多数のゾウムシ類を発見し, 内3個体を大学に持ち帰った. この個体は, 指導教員の大場を通して長谷川に照会され, ハマベゾウムシであることが同定された.

ハマベゾウムシが知多半島で確認されたのは, 約60年ぶりであり, 三河湾(知多湾)沿岸では初めてとなる. すでに調査適期(5~7月)を過ぎていたため, 2016年以降に改めて詳細な生息状況の調査を行う予定であるが, 知多半島での本種の生息確認と, 生息地を含めた周辺環境について, 簡単な知見を得ることができたので報告する.

記 録

ハマベゾウムシ *Aphela gotoi* (Chûjô et Voss, 1960)

[検視標本]

3exs. (大場保管), 愛知県知多郡美浜町河和北屋敷(河和海水浴場), 2015年7月28日, 金 郁彦採集(他に多数目撃); 1ex. (豊橋市自然史博物館保管, TMNH-I-28807), 採集地同上, 2015年9月6日, 長谷川道明採集(第1図).

生息地及び周辺環境

生息地は, 河和港と化学工場に挟まれた僅か約600 m

の砂浜で, 夏場は海水浴場として利用されている. アマモは浜に広く漂着していたが, 漂着量は北側に偏りが認められ, 北端の防波堤付近に最も漂着量が多く, 南に下るに従い減少した. ハマベゾウムシが発見されたのは, いずれも漂着量が最も多かった北端近くであった(第2図).

知多半島の三河湾(知多湾)に面した海岸は, 人工化が進んでおり, 湾奥から武豊町にかけては, 工業地帯となっているが, 美浜町布土から南には僅かながら半自然的な海岸が点在する. 2015年9月6日に, 美浜町布土川河口から南知多町大井にかけての海岸について, ハマベゾウムシの生息とアマモ漂着状況についての調査を行った. 調査できた海岸のうち, アマモの漂着が認められたのは, 美浜町河和海水浴場と美浜町布土大池海岸の2か所で, 大量のアマモが漂着



第2図. ハマベゾウムシが確認された海岸. 浜の北端付近から南方向を撮影.

していたのは、河和海水浴場のみであった（第1表）。

伊勢湾・三河湾のアマモ場面積の激減の主要な要因は、水質の悪化に伴う透明度の低下と推測されているが、海的环境は徐々にアマモ類の生育に適したものに変化していると考えられている（阿知波, 2009）。一方で伊勢湾・三河湾岸では、ハマベゾウムシの生息がこれまで絶望視されていたことから、この地域の探索が疎かになっていた側面もある。今後伊勢湾・三河湾岸でのハマベゾウムシの生息状況について、詳しい調査が望まれる。

引用文献

- 愛知県環境調査センター（編），2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生動物レッドデータあいち 2009, 一動物編一. 愛知県, 649 p.
- 阿知波英明, 2009. 伊勢・三河湾のアマモ場面積の変動. 愛知県水産試験場研報, (15): 29-33.
- Chûjô, M. and E. Voss, 1960. Neue Curcuioniden-Subfamilie, -Gattungen und -Arten von Japan (Coleoptera, Curculionidae). *Mem. Fac. Lib. Art & Edu. Kagawa Univ.*, (94): 1-17.
- 長谷川道明・蟹江 昇, 1992. 豊橋市表浜海岸の海浜性甲虫類. 豊橋市自然史博物館研報, (2): 13-24.
- 穂積俊文, 1990. 愛知県の昆虫類（Ⅱ）. 愛知県の昆虫, 上, 愛知県農地林務部自然保護課, 名古屋, 232-308.
- 松本雅道, 2003. 遠州灘海岸におけるハマベゾウムシの分布と漂着アマモ量. 漂着物学会誌, 1: 1-5.
- 三重県環境森林部自然環境室（編）, 2006. 三重県レッドデータブック 2005 動物. 三重県, 498 p.
- 森本 桂, 1993. 海辺の甲虫類概説. 昆虫と自然, 28(11): 2-6.
- 多比良嘉晃・松本雅道, 2000. 静岡県における海岸性甲虫類. 環境システム研究, 7: 39-71.
- 野生動物調査協会・Envision 環境保全事務所, 2014. 日本のレッドデータ検索システム. <http://www.jpnrdb.com/index.html>（閲覧日 2016.01.26）.